



教育相談だより H28. 6. 17 発行

文責：田中純子

梅雨に入り、しばらくは憂鬱な時期になりますが、いかがお過ごしですか。

中学生活にもようやく慣れ、毎日元気に活動している1年生、職場体験を終え、そこでの学びを学校生活にも活かしていきたいと奮闘する2年生、第1回目の進路説明会を控え、少しずつ進路に向けて考え始めた3年生、それぞれが目標を持って日々の学校生活を送っています。

先日行われた、担任による「教育相談」では、普段なかなかゆっくり話ができない中、短い時間ですが、担任と顔を合わせ、話ができるチャンスになったのではないのでしょうか。その話の中で、話題に多く上ったのが「人間関係」のことでした。

たまたま本屋で目にとまった、『君の臍臓をたべたい』（住野よる著）という一冊の本。早速購入して読んでみました。その中で気に入った部分があったので紹介します。

「君にとって、生きるってというのは、どういうこと？」（中略）

「生きるってのはね ……きっと誰かと心を通わせること。そのものを指して、生きるって呼ぶんだよ」

「誰かを認める、誰かを好きになる、誰かを嫌いになる、誰かと一緒にいて楽しい、誰かと一緒にいたらうとうしい、誰かと手をつなぐ、誰かとハグをする、誰かとすれ違う。それが生きる。自分たった一人じゃ、自分がいるって分からない。誰かを好きなのに誰かを嫌いな私、誰かと一緒にいて楽しいのに誰かと一緒にいてうとうしいと思う私、そういう人と私の関係が、他の人じゃない、私が生きてるってことだと思う。私の心があるのは、皆がいるから、私の体があるのは、皆が触ってくれるから。そうして形成された私は、今、生きてる。まだ、ここに生きてる。だから人が生きてることには意味があるんだよ。自分で選んで、君も私も、今ここで生きてみたいに」

『君の臍臓をたべたい』（住野よる著）

いろいろな人と関わりながら、この世でたった一人の「私」、生きているってことを実感したいなと思いました。しかし、そこに至るまでは、きっと多くの問題もあるでしょう。そんな時は、一人で抱え込まずに誰かに相談してみてくださいね。



スクールカウンセラーの岡本と申します。本校5年目となります。

小郡中の他に、小郡小、小郡南小、上郷小にも行っています。

今楽しみなのは、オリンピックです。できるだけたくさんの競技を見たいと思っています。他には時間を作って、レノファの観戦も楽しみの一つです。時間があれば、本も読みたいし、TVも見たいなーと思っています。

これからじめじめとした季節に入りますが、少しでも楽しいことができる時間が作れるといいですね。

岡本 博子カウンセラーの紹介



やまぐち総合教育支援センター内 子どもの教育に関する総合相談機関

子どもと親のサポートセンター・ふれあい教育センター

〒754-0893 山口市秋穂二島 1062 番地 (山口県セミナーパーク内)

電話相談

専門の相談員がさまざまな御相談に応じます。

【相談時間】月～金 8:30～17:15、火・木 21:00 まで夜間相談を実施 ※祝日、年末年始(12/29～1/3)を除く

【相談内容】就学や進路に関する事、学校での学習や生活に関する事、いじめ・不登校に関する事、家庭での養育の事、乳幼児の育児に関する事、特別支援教育に関する事 など

【対象】児童・生徒・保護者・教職員等

ふれあい総合テレホン ☎ 083-987-1240

○いじめ、暴力、問題行動、交友関係などに関する相談は

「24時間子どもSOSダイヤル」 ☎ 0120-0-78310

○ファックスやメールによる相談は

「ふれあいファックス」Fax 083-987-1258

「ふれあいメール」(メール) soudan@center.ysn21.jp



来所相談

子どもと親のサポートセンター・ふれあい教育センターの職員や臨床心理士等の専門家が、子どもの教育に関する専門的な御相談に応じます。

【相談時間】月～金 9:00～17:00 ※祝日、年末年始(12/29～1/3)を除く

【相談内容】いじめ・不登校(園)や問題行動、学校不適應、障害などに関する事、インターネットや携帯電話(スマートフォン等)の利用に伴うトラブルなど。

※事前予約制となりますので、上記のふれあい総合テレホンへお申し込みください。

保護者の皆さまへ

人には、自分がだれかから見られているということを意識することによって始めて、自分の行動をなし
うるところがある。 浜田寿美男・山口俊郎共著「子どもの生活世界のはじまり」から

幼児は、親がいつも決まった場所から自分のことを見ているのを確かめてようやく、安心して
遊びに没頭することができる。誰かが背後でじっと見ていてくれるから、逆にひとり、目の前の
ことに全力で取り組めるとするのは、もちろん大人たちにも等しく言えること。

「折々のことば」(朝日新聞 2016.5.9)

子どもも大人も、「誰かにわかってほしい」という気持ちは誰しも持っているのではないでしょ
うか。ただ、思春期の真っ只中にある中学生はその気持ちを素直に表すことができません。時には、「ほうっておいて」と強い言葉で関わりを拒否することがあるでしょう。しかし、それは本心
ではないと、心に余裕をもって関わり続ける大人でありたいと思います。子どもたちのことで何
かお気づきがありましたら、遠慮なくお知らせください。